

しんきん経済研究所トピックス

2018年12月20日

2019年の経営見通し

一般材法人しんきん経済研究所（理事長 俵山初雄、以下しんきん経済研究所）は、浜松地域の中小企業を対象に行った「2019年の経営見通し」をまとめましたのでご案内します。

1. 調査概要

調査対象 遠州信用金庫、浜松信用金庫、磐田信用金庫の取引先 661社

調査方法 調査表による面接聴取法

調査時期 2018年12月3～7日

回収状況 調査数 661社 回収数 641社（有効回答率 97.0%）

2. 調査結果（詳細は別添資料をご参照ください）

①2019年の日本の景気 高水準ながら減速を見込む

2019年の日本の景気をどのように見通しているかをたずねたところ、「良い」と回答した企業は20.8%となり、「悪い」の29.2%を8.4%下回った。昨年調査（2018年の見通し）と比較すると、「良い」が6.0%減少（26.8→20.8%）し、「悪い」が1.5%増加（27.7→29.2）した。昨年調査より悲観的な見通しとなっているが、「良い」の回答割合は過去10年間で3番目に高い水準となった。

②自社の業況 「悪い」が「良い」を僅かに上回る

2019年の自社の業況については、「良い」=22.5%、「普通」=52.4%、「悪い」=25.1%となり、「悪い」が「良い」を2.6%上回った。「悪い」が「良い」を上回ったとはいえ、過去10年間では昨年調査（2018年の業況）に次いで2番目に良好な結果となった。

③約4割の企業が売上増加を見込む

自社の売上見通しを2018年と比較すると、「増加する」=39.5%、「変わらない」=40.9%、「減少する」=19.6%と「増加する」が「減少する」を19.9%上回った。

④業況改善度合いは2極化が進む

自社の業況が上向き転換点についてたずねたところ、「すでに上向いている」が25.5%あった一方、「業績改善の見通しはたたない」も26.1%あり、業況改善度合いの2極化が進んでいることがうかがえる。

本件のお問い合わせ先

432-8036 浜松市中区東伊場2-7-1 浜松商工会議所会館5階

しんきん経済研究所 間淵

TEL 053-452-1510

mabuchi@shinkinkeizai.jp